



長岡市医師会だより

長岡市医師会

会長 荒井 義彦



一般社団法人長岡市医師会は、令和8年6月1日開催の定時総会において新体制が承認されました。会長は私、荒井が拝命致しました。副会長は2期目の高野勝先生と新副会長に三上理先生が選出され、総務理事には木村慶太先生の執行部体制となりました。スタッフ並び各理事とコミュニケーションを密にし、ワークシェアリングを行い運営しております。

現在長岡市は人口約25万人で長岡、中之島、越路、三島、山古志、小国、和島、寺泊、栃尾、与板、川口（医師会是小千谷市魚沼市医師会）の11地域に分けられております。人口減少、医師不足問題は当地でも重要な課題です。現在医師不在の地域は山古志だけですが、ベテラン医師が奮闘している地域が数カ所存在し、長岡地域以外の新規開業は10年以上なく、今後も人口減少が予想されており、不在地域が増加していきそうです。令和8年7月時点で、A会員112名、B会員354名、研修医50名の計516名で、前回令和7年4月の報告時より各々1名、13名、1名減少しております。これらのことをふまえて市主導で令和5年1月より、山古志診療所と長岡中央総合病院間のオンライン診療を開始しておりますが、新たにオンライン診療車も導入し、令和7年より試験的にD to P with Nで運用をしております。今後は医師不在地域だけでなく、遠隔地の在宅医療にも有用なツールとなることが期待されております。

中越地区でも新たな地域医療構想調整会議が始まりますが、長岡が全国に誇れる断らない長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、立川総合病院の救急担当3病院の二次救急輪番体制は、医療過疎地

域の住民の安心安全を支える上ではなくてはならないシステムであります。今後も維持存続が必要と考えております。

医療、看護、介護を繋ぐICT、フェニックスネットは維持費用の関係で3病院との双方向での連携は断念しましたが、救急外来とはつながっており、救急隊も端末を使用していて、救急搬送において特に有用となっております。新たに人生会議の情報も入れ、終末時に搬送をしない選択肢も追加致しました。長岡市と小千谷市で稼働中ですが、新たに令和9年4月より出雲崎町の参加が決まっており、さらに広域になったの運用を当面継続する予定です。

さて、長岡人の特性ですが、無口で辛抱強く純朴です。一見閉鎖的とみられがちですが一旦酒が入ると胸襟を開きます。当医師会も従来から顔の見える関係の構築に努めており、行政、救急3病院を中心した病院、診療所、歯科医師会、薬剤師会、看護協会等と良好な関係が築かれております。当医師会は催しも多く新年会、新年囲碁・将棋・麻雀・ボーリング大会、夏は納涼ビールパーティー、秋にはゴルフコンペ、親睦旅行を主催しております。もちろん学術講演会、研修会も多々開催致しております。長岡市は夏は花火、冬は雪、最近では熊でニュースに頻回に取り上げられております。日本の中都市では知名度ナンバーワンではないでしょうか。新幹線を利用すれば都心からも一時間強の近さです。新潟市より通勤している会員も多く存在します。雪が苦でなく長岡で医療をやりたいとお考えの先生がおられましたら是非当医師会にご連絡ください。